◆事務局職員になって

佐藤加津三

この４月から花北地区コミュニティ協議会事務局職員（事務局次長）となりました佐藤と申します。行政区は四日町三丁目です。どうかよろしくお願いいたします。コミュニティ協議会にお世話になる前は、平成29年３月末の定年退職まで花巻市役所に勤務し、その後、この３月末まで釜石市役所に４年間、応援職員として勤務していました。花巻市役所では、水道事業所、税務課、広聴広報課、地域づくり課、生涯学習課、農業委員会事務局などで、また、釜石市役所では税務課で仕事をしてきました。

特に平成23年度に、花巻市役所に新たに地域支援室が置かれた際は、地域支援監として各振興センターを回り、各地区コミュニティ会議のまちづくりを一緒に考えたり、地域計画づくりの相談に対応したりしたことを思い出します。また、生涯学習課では、まなび学園や石鳥谷生涯学習会館で、市民の皆さんの生涯学習活動の支援などの仕事をしていました。

仕事以外では、昭和50年代のランドナー（旅行用自転車）を２台所有していて、１台は散歩・通勤用に（冬期間を除いてほぼ毎日乗っています）、もう１台は時々長距離を走行したい時用に、と使い分けています。釜石市役所に勤務していた時に、何回かに分けてですが花巻と釜石の間を自転車で往復しました。現在も振興センターに時々自転車で通っています。今年も機会を見てあちこち走ろうと思っています。また、中学の時に始めた楽器を、未だに続けていて、時々コンサートのようなこともしています。好奇心旺盛な性格のせいで、ほかにもいろいろありますが、仕事以外のことはこのくらいにします。

これからコミュニティ協議会の様々な仕事をしていくことになりますが、地域づくり課や生涯学習課でのことやこれまでの様々な経験を思い出しながら、少しずつ慣れていこうと思いますので、皆様の指導をよろしくお願いいたします。

地区だより

クラ・ゼミ花巻校の活動

四日町一丁目一区
クラ・ゼミ児童指導員　高橋花実

こどもサポート教室「クラ・ゼミ」花巻校は平成31年３月、四日町一丁目一区に開校しました。以来、地域の皆様のご協力により、事業を続け、開校３年目を迎えることができました。

「クラ・ゼミ花巻校」は、発達に課題を抱え、特別な支援を必要とするお子様を対象とした障がい児通所支援事業所です。利用対象年齢は、２歳頃から18歳です。

クラ・ゼミ花巻校の特徴は、ご本人と保護者様と密なコミュニケーションを重要視していることです。ご本人様、保護者様や学校等の様子、他のサービス機関の情報等を踏まえ、個別療育・支援の内容を考えます。実際に支援会議等機関連携を図り、ご本人様にとってより良い療育の在り方を考えます。その上で、学習支援、生きる力、対人関係を良好に保つ力等、お子様一人ひとりの状況やニーズに合わせた、療育・支援をマンツーマンで行います。

職員は、保育士、教員免許取得者、作業療法士、精神保健福祉士、社会福祉士と、専門資格をもった職員が多角的な視点でお子様の成長と発達のための支援を行います。

コロナ禍に対応した新しい試みとして、通常の個別療育・支援に加え、インターネットを利用した遠隔支援も提供しております。今回、コロナ禍ではありますが、５月に開催した「こどもサッカーきょうしつ」の様子をお伝えします。

参加したのは、児童５名と、ボランティア、コーチ、職員の計11名。ボランティアに、大学生のサッカー選手２名が参加しました。ドリブル、シュート、パス、体育館いっぱいボールを追いかけ、みんな汗だくでした。子ども対大学生のミニゲームでは、お子様方のシュートが決まると保護者様方から大きな拍手が送られました。

みんなで楽しく運動

クラ・ゼミ花巻校がお子様、保護者様に安心して楽しく過ごせる居場所であり続けられるよう、精進して参りますので、「こどもサポート教室『クラ・ゼミ』花巻校」をよろしくお願いいたします。

「地域福祉に関するアンケート」より

四日町二丁目　金澤栄一

コロナ禍で、地区だよりとして紹介するような事例が無い中、今回は、昨年、社協花巻支部が各地区に呼びかけて実施した標記アンケートを取り上げ、あくまでも私見であることをお断わりした上で、結果から見えてくる地域事情に触れてみたいと思う。

その地域事情とは、世帯の核家族化、高齢化がここまで進んでいるのかという実情である。当行政区の世帯数は約１９０。構成比を見てみると、人員構成は、１～２人世帯が全体の60％弱、３人世帯まで含めると、実に、80％近くを１～３人という少人数世帯が占めていることになる。一昔前まではごく普通だったように思う大人数の三世代同居世代は、今では指折り数える程の数でしかない。年代構成については、感覚的に予想していた通り60代以上の高齢者世帯が70％を占めている。古希になる身の若かりし頃の家庭像からは隔世の感さえする世帯の現状であり、しかもピークは数年先という現在進行形の実情である。